



### 【寄稿】歴史認識はどうつくられていくか

最近『坂の上の雲』という本を読んだ。日清戦争、日露戦争を描き日本の明治時代のやむにやまれぬ戦争だったというように戦争を正当化したような内容になっている。朝鮮半島をめぐるこの戦争を、朝鮮の人々はどのように認識しているのだろうかという疑問を持った。

その時『日清戦争の虚構と真実』(中塚明/安川寿之輔/醍醐聡著)という本をみつけ今読んでいる。戦争がどのように仕組まれていったのか東郷平八郎艦長の浪速が高陞号(こうていごう)を撃沈し、しかも日本の海軍が溺れる清国兵を救わなかった。今まで教えられてきた歴史認識に疑問を持つと同時に正しい歴史観を見つけるよい機会になった。また朝鮮の人々は朝鮮半島を巡る日本と清国の戦争行為をどのように感じているのだろうか知りたいところである。戦争に駆り出され、銃剣に倒れ犠牲になったのは日本、清国、朝鮮それぞれの人民に他ならない。現在も領土問題が物議を醸しているが、平和的に解決するには、武力でなく話し合いを持って解決していく勢力の拡大が大切だと感じるこの頃です。(倉敷:岡本一)

# 7月参院選に向けて

2月の第5回全国代表者会議で、衆院選総括および参院選挙闘争方針が議論承認され、全党が「3議席、300万票以上」獲得に全力をあげることを決定しました。党が存亡の危機にあるという現実を直視し、早期の選挙態勢と比例票の上積みにもむけて大衆運動や宣伝・政策活動で発信力を高め、国民の政治に対する期待に応えるため全力で取り組みをすすめています。岡山県連合は3月30日の常任幹事会で詳細な活動を意思統一

**候補者擁立**  
・ 11ブロックから1名以上、大票田での公認候補擁立など  
・ 比例候補は4名以上の擁立  
・ 青年・女性、脱原発、学者文人などから2名以上目指す  
・ 比例候補のブロック・県割り振り(岡山は中国・九州ブロックで沖繩・山城氏の必勝を目指す\*資料別紙)

**比列獲得目標数**  
・ 中国ブロック 15万票  
・ 中国ブロック 15万票  
・ 中国ブロック 15万票  
・ 中国ブロック 15万票  
・ 中国ブロック 15万票  
・ 中国ブロック 15万票  
・ 中国ブロック 15万票  
・ 中国ブロック 15万票  
・ 中国ブロック 15万票  
・ 中国ブロック 15万票

## 周りのいろんな大衆運動にも積極的な参加!

**3・11を忘れない**  
東日本大震災・東電福島第一原発事故から2年を前に3月10日、岡山市内で震災と原発事故、被災者を忘れない311ウオーク&トークが行われた(主催 子ども未来・愛ネットワーク)。後楽園近くの石山公園には避難している人や市民・団体など約500名



が参加。あいにくの荒れ模様の天候と黄砂とで空はどんよりとしていたが、それでも会場内のシダレウメは満開で、春が近いことを感じさせた。子どもたちが目立つ会場では、3・8国際女性デー岡山県集行委員会が3月9日、岡山市内で県集行を約110名が参加して開催。フォトジャーナリストの樋口健二さんが「私が原発を追うようになったわけ」と題して講演した。

は、原発事故を歌った「なみだで虹が」や「原発数え歌」三味線ライブが行われ、引き続き緑道公園まで、それぞれ一輪の花を手に行進、下石井公園の献花台に脱原発と被災者への想いを込めて献花した。樋口さんは「富は大都市に集中し、地方に公害が残されていくという差別に疑問を持たれた」ということから労働や公害の報道写真を撮り続け、「差別と被ばくとお金」を生んでいる原発の問題点を指摘した。「定期検査時には一日1500人以上の下請け・孫請けひ孫請け(農民・漁民・被差別部落)の労働者、未組織の労働者、また外国の労働者も200名単位で原発内の作業を行っている」「もれた放射能をぼろ雑巾で拭き取るなどすべて手作業の仕事で原発が成り立っていて、この作業がなければ原発は動かない。そのなかで多くの労働者が被ばくし、原発は差別の上に成り立っている」と批判した。



「新報」読者会  
4月9日(第2火)18時  
4月19日(第3金)18時  
「弓之町」時事問題懇話会  
いずれも同じ場所  
社民党県連合会議室

裁判員裁判でよく言われるのが「市民の常識」である。判決の量刑では「市民の常識」がより重くなる傾向があるという。意識するかどうかは別として、行動や判断の何らかの基準にも「常識」がある▼「体罰」問題も、この「常識」が大きく影響しているように思う。国際大会で競技に負けたある国の選手がピンタを受けたのを目撃した別の国の選手がびつくりして、大会委員会に訴えたという。しかしこれがニュースになったことで「びつくり」したのは私たちではなかったか。私たちの「常識」は疑問を持つこともなく「愛のムチ」とかを容認していませんか。相手を理解してないことが「無知」の証明であると気付いたとき、初めて国際的といえよう▼「常識」とはそのときの為政者の思想(常識)である。権力者に都合のよい意識・秩序づくりを支えるのが「常識」という。国益を守るという「常識」がナショナリズムと合流し、改憲の世論づくりに利用されていないか。さてこの「常識」論がどう受け入れられるか、これも「常識」の範疇か?(の